

## 実体経済の動向

### ◇生産は微減、出荷は増加

(生産——4ヵ月ぶりに減少)

2月の鉱工業生産(速報、季節調整済み<sup>(注)</sup>、前月比)は-0.4%(船舶を除くと-0.2%)と4ヵ月ぶりに減少した(前年同月比+6.8%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

2月の生産を財別にみると、耐久消費財、生産財、資本財輸送機械が増加したものの、一般資本財、建設財、非耐久消費財は減少した。すなわち、一般資本財は土木建設機械、圧縮機・送風機、産業用電気機械、電力・通信ケーブル等が増加した反面、事務用機械、電子計算機、通信機械、クレーン等が減少したことを主因に4ヵ月ぶりに減少したほか、建設財も建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ)、土石製品(コンクリート管、護岸用コンクリート製品)、セメント等の減少を主因に4ヵ月ぶりに減少した。また、非耐久消費財も、灯油、メリヤスおよび繊維二次製品等の減

少を主因に3ヵ月ぶりに減少した。

一方、耐久消費財は、暖ちゅう房熱機器、電子レンジ、電気洗たく機等が減少した反面、小型乗用車、電気冷蔵庫、エアコン(ウインド型、セパレート型)、二輪自動車等が増加したため、前月減少のあと再び増加となり、生産財も、有機薬品(エチレン、エチレングリコール、プロピレン)、繊維原料(カプロラクタム)、板紙等が減少した反面、鉄鋼素製品(銑鉄、粗鋼)、非鉄地金(電気銅、亜鉛、アルミ)、プラスチック(ポリエチレン、ポリスチレン、ポリプロピレン)が増加したことを主因に5ヵ月連続の増加となった。また、資本財輸送機械も、乗用車(小型、普通)、トラック等の増加を主因に3ヵ月ぶりに増加した。

(出荷——2ヵ月連続の増加)

2月の出荷(速報)は、+0.6%(船舶を除くと+0.2%)と前月(+1.9%)に続き2ヵ月連続の増加となった(前年同月比+7.3%)。

2月の出荷を財別にみると、一般資本財、建設財が減少したものの、耐久消費財、非耐久消費財、生産財、資本財輸送機械は増加した。すなわち、耐久消費財は、暖ちゅう房熱機器、電子レンジ、電気洗たく機等が減少した反面、小型乗用

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	53年				53年		54年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月		
鉱 指 数	120.2	122.3	122.9	125.8	127.5	127.9	127.4		
工 前期(月)比	2.9	1.7	0.5	2.4	1.4	0.3	-0.4		
業 前年同期(月)比	4.2	6.1	6.7	7.6	7.9	7.2	6.8		
投 資 財	3.4	1.5	0.3	3.9	1.8	0.5	-1.0		
資 本 財	3.7	2.4	-0.5	4.1	2.1	-1.5	-0.2		
同 (輸送機械を除く)	6.4	4.0	-1.7	6.2	3.0	0.6	-1.0		
輸 送 機 械	-5.1	-0.6	2.2	-2.2	-1.3	-5.4	1.9		
建 設 財	3.1	-0.8	2.2	3.8	0.5	1.3	-2.2		
消 費 財	4.3	1.0	0.0	2.1	1.4	0.5	-0.5		
耐久消費財	3.0	3.3	2.6	2.2	2.5	-2.3	1.8		
非耐久消費財	4.8	0.0	-1.9	2.0	0.7	2.2	-2.2		
生 産 財	2.0	1.5	1.0	1.7	1.3	1.0	0.6		

(注) 1. 通産省調べ。54年2月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	53年				53年		54年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月		
鉱 指 数	119.6	120.7	121.3	123.3	124.2	126.5	127.3		
工 前期(月)比	3.3	0.9	0.5	1.6	-0.2	1.9	0.6		
業 前年同期(月)比	4.2	6.1	6.5	6.6	5.8	6.7	7.3		
投 資 財	4.1	0.4	0.2	2.6	-1.0	3.5	0.0		
資 本 財	5.3	-0.2	0.1	2.1	-2.1	5.4	-0.3		
同 (輸送機械を除く)	4.1	4.5	-1.0	4.8	-1.8	5.8	-1.4		
輸 送 機 械	7.5	-7.9	1.7	-3.2	-3.9	2.1	3.7		
建 設 財	0.8	1.0	1.6	3.9	1.0	0.1	-1.2		
消 費 財	5.0	-1.0	1.6	-0.7	0.0	1.8	1.5		
耐久消費財	4.0	-0.1	3.6	-0.7	-0.3	0.2	2.2		
非耐久消費財	4.9	-1.0	-0.6	0.4	1.7	1.7	0.7		
生 産 財	2.2	1.6	0.3	2.7	0.6	0.6	0.9		

(注) 1. 通産省調べ。54年2月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

車、軽自動車、二輪自動車、カラーTV等が増加したため2か月連続の増加となり、非耐久消費財も家庭用合成洗剤、石けん、敷物、革靴等の増加を主因に3か月連続の増加となった。また、生産財は、鉄鋼素製品(銑鉄、粗鋼)、非鉄地金(電気銅、アルミ)、紡績糸(綿糸、毛糸、合繊糸)等が減少したものの、通信・電子部品、自動車部品、化学肥料(アンモニア、複合肥料)、繊維原料(テレフタル酸、カプロラクタム)、プラスチック(ポリプロピレン、ポリエチレン)等が増加したため、5か月連続の増加となり、資本財輸送機械も小型乗用車、船舶、軽・小型トラック等の増加を主因に2か月連続増加した。一方、一般資本財は、ショベル系掘削機、圧縮機・送風機、電力通信ケーブル、産業用電気機械、エレベータが増加したものの、事務用機械、通信機械、電子計算機、機械プレス等が減少したことを主因に前月増加のあと再び減少となり、建設財も小形棒鋼、セメント、板ガラス、土石製品(コンクリート管、ブロック、道路用コンクリート製品)等の減少を主因に7か月ぶりに減少した。

#### (在庫——5か月ぶりに減少)

2月の生産者製品在庫(速報)は-1.3%と5か月ぶりに減少し(前年同月比-2.5%)、同在庫率指数(50年=100)も79.4と前月(80.4)比1.0ポイント低下した。

2月の在庫を財別にみると、一般資本財が横ばいとなり建設財、耐久消費財が増加したものの、非耐久消費財、生産財、資本財輸送機械は減少となった。

非耐久消費財は、家庭用合成洗剤、灯油、家庭用薄葉紙等が増加した反面、浴用石けん、敷物、革靴等が減少したため、6か月ぶりに減少となり、生産財も鉄鋼製品(鋼板、鋼帯)、銅地金、軽油、ナフサ、綿糸、毛糸等が増加したものの、通信・電子部品、化学肥料(アンモニア、硫酸)、有機薬品(エチレン、エチレングリコール)、プラスチック、段ボール原紙、織物(綿、合繊織物)等の減少を主因に前月増加のあと再び減少となった。

### 鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

		53年 (期末)				53年		54年	
		3月	6月	9月	12月	12月	1月	2月	
鉄	指 数	103.4	102.5	101.2	102.5	102.5	104.1	102.7	
工	前期(月)末比	-2.2	-0.9	-1.3	1.3	0.5	1.6	-1.3	
業	前年同期(月)末比	0.9	-3.4	-4.0	-3.0	-3.0	-2.4	-2.5	
投	資 財	-4.0	-3.0	-2.1	0.5	0.0	2.4	-0.8	
資	本 財	-5.4	-3.1	-5.8	1.3	0.1	2.2	-2.3	
同	(輸送機械を除く)	-3.2	-4.9	-6.3	-0.6	0.6	2.7	0.0	
輸	送 機 械	-7.5	-1.9	-3.8	3.4	-1.2	1.5	-5.8	
建	設 財	-1.6	-2.8	-2.6	-0.3	-0.1	3.8	0.3	
消	費 財	-2.1	-4.1	-1.6	8.3	3.1	2.6	-2.9	
耐	久 消 費 財	1.8	6.1	-3.2	8.4	4.6	1.4	0.7	
非	耐 久 消 費 財	-4.2	3.0	-0.1	6.3	0.9	2.1	-5.0	
生	産 財	-1.3	-3.2	-0.5	-2.1	-0.5	0.6	-1.3	

(注) 1. 通産省調べ。54年2月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

また、資本財輸送機械も小型自動車、トラック(小型、普通)等の減少を主因に前月増加のあと再び減少した。一方、建設財は、セメント、板ガラス、コンクリート管、道路用コンクリート製品等が減少したものの、H形鋼、小形棒鋼、亜鉛メッキ鋼板、アルミサッシ・ドア等が増加したことから2か月連続の増加となり、耐久消費財も暖ちゅう房熱機器、二輪自動車、軽自動車、時計等が増加したことを主因に5か月連続の増加となった。なお、一般資本財は土木建設機械(装軌式トラクタ)、事務用機械(複写機<間接式>)、産業用電気機械(標準変圧器)が増加したものの、電力・通信ケーブル、ポンプ、金属加工機械、通信機械等が減少したため、前月比横ばいとなった。

#### (設備投資——機械受注は2か月連続の増加)

2月の一般資本財出荷(速報)は、前月(+5.8%)大幅増加のあと-1.4%と減少した。

これを品目別にみると、公共投資関連の建設機械(ショベル系掘削機、装軌式トラクタ<10t以上>)、圧縮機・送風機、電力投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械、エレベータ等が増加したものの、反面通信機械、電子計算機(外部記憶装置、入出力装置)、事務用機械(複写機)

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	53年			53年		54年		
	4～6月	7～9月	10～12月	12月	1月	2月		
民 需	2,912 ( 0.3)	3,426 ( 17.7)	3,092 (- 9.8)	3,201 (- 1.0)	3,189 (- 0.4)	3,340 ( 4.7)		
同 (船舶を除く)	2,804 ( 1.1)	3,290 ( 17.3)	2,979 (- 9.4)	3,042 (- 1.6)	3,074 ( 1.0)	3,333 ( 8.4)		
製 造 業	1,020 (- 3.1)	1,125 ( 10.3)	1,151 ( 2.3)	1,277 ( 12.2)	1,257 (- 1.6)	1,188 (- 5.5)		
非製造業	1,900 ( 2.8)	2,304 ( 21.3)	1,944 (- 15.6)	1,923 (- 8.5)	1,955 ( 1.6)	2,083 ( 6.5)		
同 (船舶を除く)	1,789 ( 5.0)	2,216 ( 23.8)	1,855 (- 16.3)	1,797 (- 9.1)	1,851 ( 3.0)	2,081 ( 12.4)		

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

等は減少した。

2月の機械受注額は、船舶を除く民需で+8.4%(前年同月比+26.3%)と前月(+1.0%)に続き2か月連続の増加となった。

業種別にみると、製造業からの受注は、石油が前月著減の反動から大幅増加となったほか、繊維、機械等も増加したが、化学、鉄鋼、自動車等が減少したことから-5.5%(前年同月比+21.0%)と前月(-1.6%)に続き2か月連続の減少となった。一方、非製造業(船舶を除く)からの受注は、建設、商社等が減少した反面、電力がかなりの増加となったため+12.4%(前年同月比+29.1%)と前月(+3.0%)に続き2か月連続の増加となった。

この間、官公需は通信が電電公社による交換機等の発注増を主因に、運輸が地方公営企業による地下鉄車両発注集中からそれぞれ増加となったため+12.1%(前年同月比-13.1%)と前2か月減少(53/12月-8.7%→54/1月-20.0%)のあと再び増加した。

## ◇2月の小売商況は引続き底固い伸び

2月の都内百貨店売上高(百貨店協会調べ)は前月比微増(+0.1%)にとどまったが、記録的な暖冬(2月の東京の平均気温8.4度、昨年4.2度、平年値4.8度)の悪影響を受けたわりには底固い売行きを続けた。

品目別にみると、値嵩の冬物重衣料(特に紳士

物)、暖房器具の売行きが不振であった反面、婦人春物衣料が好調な出足をみせたほか、身の回り品、家具、日用家庭用品なども売行きが好伸した。この間、食料品は生鮮食料品の値下りから金額的には伸び率が低下した。

3月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は前月の大幅増加(+5.0%)のあと+0.3%と5か月連続の増加となった。このところの増勢持続には、ディーラー各社が拡販キャンペーンを集中させていることに加え、個人営業世帯、農家世帯などを主体に買い替え需要が伸長していることが寄与している模様である。

## ◇商況の基調——石油関連商品を中心に続伸

3月の商品市況は、鉄鋼(鋼板類)、綿糸、建材(木材、合板)がメーカーの増産や流通・ユーザー筋の手当て一巡からやや弱含んだものの、石油製品(ガソリン、C重油)が騰勢を強めたほか、非鉄(銅、鉛、アルミ)や、石油関連の合成樹脂(塩ビ樹脂、ポリエチレン)、合繊等が上昇を示し、棒鋼、そ毛糸なども堅調に推移するなど総じて続伸歩調をたどった。

これは、①為替相場円安化のもとで、原油、非鉄を中心に海外原料品価格が騰勢を続けている状況下、②国内需給地合いの改善を背景にコスト高を製品価格に転嫁する動きが拡がり(C重油、合成樹脂、合繊)、③こうした事情をながめて流通・ユーザー筋の一部にも市況先高観から在庫補充に向う動きが強まったこと(非鉄、合成樹脂、棒鋼)などによるものである。

## (卸売物価——続騰)

3月の卸売物価は+0.9%と5か月連続の上昇となり、前年同月比では+0.1%と52年9月以来1年6か月ぶりに前年同月の水準を上回った。

品目別には、為替円安や海外高を映じて原油、非鉄(銅地金、鉛地金)等輸入品および海外関連品が上昇したほか、石油製品(ガソリン)、化学製品(塩ビ樹脂、プラスチック・フィルム)、紙パ(段ボール・シート)、鉄鋼(小形棒鋼)等も需給地合いの堅調を背景とする原料コスト高波及の動きを

## 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	53 年 10~12 月平均	54 年 1~3 月平均	54 年					
				1 月	2 月	3 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	- 0.7	1.9	0.6	0.9	0.9	0.4	0.2	0.5
食 料 品	140.9	- 0.7	0	- 0.4	0.3	0.2	0.3	0	0.1
非食料農林産物	18.9	3.3	11.4	5.3	2.9	1.7	0.4	0.6	0.2
繊維製品	62.9	0.5	2.0	0.7	0.7	0.4	0.1	0.2	0.1
製材・木製品	33.6	0.9	7.9	5.7	1.1	- 0.3	0.2	0.2	0.9
パルプ・紙・同製品	28.9	- 2.7	2.3	0.4	0.6	3.4	2.3	0.1	0.5
金属素材	12.6	2.5	15.6	5.4	6.2	3.4	0.9	0.7	1.9
鉄 鋼	80.7	0.2	1.8	0.4	0.4	0.6	0.2	0.3	0.2
非鉄金属	26.1	1.5	10.2	2.6	7.5	3.7	1.5	0.7	1.4
金属製品	37.0	- 0.7	0.6	0.3	0.5	0.2	0	0.1	0.1
電気機器	73.3	- 0.4	0.6	0.1	0.3	0.3	0.1	0.1	0
輸送用機器	74.0	0.1	0.3	0	0	0.3	0	0.1	0.2
一般・精密機器	95.7	0.2	0.7	0.2	0.2	0.4	0.1	0.1	0.4
化学製品	91.1	- 0.9	1.3	0.2	0.5	2.1	1.1	0.2	1.2
石油・石炭・同製品	102.2	- 3.4	2.7	0.5	1.5	2.6	0.7	1.2	2.0
窯業製品	30.5	0.9	2.7	0.2	2.6	0.2	0	0	0.2
電力・ガス	25.5	- 8.8	0.6	0.3	0.1	0.3	0	0.1	0.1
雑 品 目	66.1	0.2	1.4	0.3	0.7	0.5	0.1	0.3	0
工 業 製 品	816.4	- 0.5	1.6	0.6	0.8	0.8	0.3	0.3	0.5
大企業性製品	579.9	- 0.6	1.2	0.3	0.6	0.9	0.3	0.3	0.6
中小企業性製品	214.6	- 0.1	2.1	1.0	0.8	0.5	0.4	0.1	0.4
非工業製品	158.1	0.2	3.9	0.7	1.7	1.4	0.8	0.4	0.3

(注) 日本銀行調べ。

映じて値上りした。

(消費者物価——3月&lt;東京都区部、速報&gt;はかなりの上昇)

3月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で+0.9%とかなりの上昇となったが、前年同月比では+2.5%と前月(+2.5%)並みにとどまっている。

これを品目別にみると、野菜等季節商品や被服が前月大幅下落の反動等から上昇したほか、ガソリンも原油価格上昇に伴うコスト高等を映じて値上りした(季節商品を除く総合では+0.6%)。

## ◆総合収支は5ヵ月連続の赤字

2月の国際収支は、貿易収支、経常収支が小幅な黒字にとどまったうえ、長期資本収支が再び流出超幅を拡大したため、総合収支では昨年10月以

来5ヵ月連続の赤字(761百万ドル)となった。

経常収支は、貿易収支が輸入の好伸を映じて比較的小幅な黒字(1,088百万ドル)にとどまった一方、貿易外収支が赤字幅をやや拡大したため、290百万ドルと小幅の黒字となった。

長期資本収支は、本邦資本が借款供与の減少を主因に流出超幅の縮小をみた反面、外国資本が対日証券投資の大幅な処分超から3ヵ月ぶりに流出超となったため、収支じりでは、1,039百万ドルと流出超幅が再び拡大した。

一方、短期資本収支は、対外短期外貨債券の取得増加から106百万ドルの流出超となった。

なお、2月の貿易収支を季節調整済み計数で見ると、輸出(8,203百万ドル)は、船舶、プラントが前月大幅減のあと反動増をみたこと等から

## 消費者物価指数の推移

(単位・%)

		ウエイト	53 年 10～12月 平 均	54 年 1～3月 平 均	54 年			最 近 月 の 前年同月比
					1 月	2 月	3 月	
東 京	総 合	100.0	0.2	－ 0.2	0.3	－ 0.6	* 0.9	* 2.5
	季節商品を除く総合	91.9	0.6	0.1	－ 0.2	－ 0.2	0.6	2.9
	(季節商品)	( 8.1)	(－ 5.0)	(－ 3.3)	( 6.6)	(－ 4.3)	(* 3.6)	(*－ 3.2)
	食 料	40.1	－ 1.0	－ 0.7	1.3	－ 0.9	* 0.7	* 0.2
	住 居	11.1	1.4	2.0	0.4	0.2	0.1	6.3
	光 熱	4.2	－ 7.4	－ 0.1	－ 0.1	0.1	0	－ 7.6
全 国	被 服	12.4	3.1	－ 1.8	－ 1.6	－ 1.9	2.2	3.8
	雑 費	32.2	0.8	0.3	－ 0.1	0	0.6	4.3
	総 合	100.0	0.2	…	0.1	－ 0.3	…	2.4
	季節商品を除く総合	91.7	0.7	…	－ 0.3	－ 0.2	…	2.5
	(季節商品)	( 8.3)	(－ 4.1)	( …)	( 4.6)	(－ 1.2)	( …)	( 1.0)
	特 殊 分 類							
特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.3	－ 2.1	…	1.5	－ 0.7	…	－ 0.4
	工 業 製 品	46.6	0.9	…	－ 0.5	－ 0.7	…	1.4
	うち大企業性製品	21.4	－ 0.5	…	－ 0.1	0	…	－ 0.6
	中小企業性製品	25.2	2.0	…	－ 0.8	－ 1.2	…	3.2
	サ ー ビ ス	33.6	0.1	…	0.4	0.1	…	4.3

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. \*は速報。

+4.7%と3か月ぶりに増加した一方、輸入(7,200百万ドル)も原料品の増加を主因に+4.1%と引続き増加したため、収支じりでは、1,003百万ドルとほぼ前月(919百万ドルの黒字)並みの黒字にとどまった。

この間、外貨準備高は、6か月ぶりに減少(422百万ドル)し、月末残高は32,687百万ドルとなった。

## (輸出——3か月ぶりに増加)

2月の輸出(国際収支ベース)は、+4.7%(原計数の前年同月比では、+4.9%)と3か月ぶりに増加した(同前月－2.6%)。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼、合繊維物、二輪自動車等は減少したものの、船舶、自動車、重電機器、事務用機器、化学肥料、合繊維等

が増加した。

3月の信用状接受高(季節調整済み前月比)は、+4.4%と3か月連続して増加した。

## (輸入——引続き増加)

2月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+4.1%(原計数の前年同月比は、+31.7%)と前月(+6.3%)に続き増加した。

品目別(通関ベース)にみると、食料品(肉類、小麦、砂糖)、繊維原料(羊毛、綿花)、原油等は減少したものの、金属原料(鉄鉱石、鉄鋼くず、非鉄金属鉱)、大豆、木材、加工製品(化学製品、機械機器)等が増加した。

3月の輸入承認届出額(特殊大口除外)は、+1.6%と前月(+2.3%)に続き増加した。

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	53 年			53 年	54 年		前年 2 月
	4～6 月	7～9 月	10～12 月	12 月	1 月	2 月	
経 常 収 支	4,579	5,146	2,838	1,932	△ 1,420	290	1,835
貿 易 収 支	6,532	7,351	4,958	2,622	△ 827	1,088	2,312
輸 出	23,261	24,730	26,096	9,531	5,960	7,649	7,295
輸 入	16,729	17,379	21,138	6,909	6,787	6,561	4,983
貿 易 外 収 支	△ 1,755	△ 2,051	△ 1,912	△ 605	△ 527	△ 739	△ 460
移 転 収 支	△ 198	△ 154	△ 208	△ 85	△ 66	△ 59	△ 17
長 期 資 本 収 支	△ 3,620	△ 4,019	△ 5,090	△ 1,619	△ 266	△ 1,039	164
本 邦 資 本	△ 3,559	△ 3,367	△ 5,102	△ 1,907	△ 1,140	△ 982	△ 1,016
外 国 資 本	△ 61	△ 652	12	288	874	△ 57	1,180
基 礎 的 収 支	959 ( 1,178)	1,127 ( 581)	△ 2,252 ( △ 2,986)	313 ( △ 724)	△ 1,686 ( 60)	△ 749 ( △ 834)	1,999 ( 2,059)
短 期 資 本 収 支	△ 52	664	687	△ 21	217	△ 106	△ 120
誤 差 脱 漏	△ 215	△ 146	234	△ 385	495	94	134
総 合 収 支	692	1,645	△ 1,331	△ 93	△ 974	△ 761	2,013
金 融 勘 定	692	1,645	△ 1,331	△ 93	△ 974	△ 761	2,013
外 貨 準 備 増 減	△ 1,877	1,909	3,779	758	90	△ 422	812
そ の 他	2,569	△ 264	△ 5,110	△ 851	△ 1,064	△ 339	1,201
外 貨 準 備 高	27,331	29,240	33,019	33,019	33,109	32,678	24,187
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 11,977	△ 12,060	△ 15,371	△ 15,371	△ 17,373	△ 17,643	△ 12,673

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

## 輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信 用 状	認 証	届 出
53 年 4 ～ 6 月	7,745 (+ 0.5)	5,495 (+ 1.3)	2,250	7,907 (+ 2.8)	6,308 (+ 2.5)	5,357 (+ 1.7)	8,137 (+ 1.4)	6,436 (+ 5.4)
7 ～ 9 〃	8,122 (+ 4.9)	5,853 (+ 6.5)	2,269	8,381 (+ 6.0)	6,698 (+ 6.2)	5,500 (+ 2.7)	8,421 (+ 3.5)	6,933 (+ 7.7)
10 ～ 12 〃	8,348 (+ 2.8)	6,940 (+ 18.6)	1,408	8,495 (+ 1.4)	7,263 (+ 8.4)	5,678 (+ 3.2)	8,679 (+ 3.1)	7,630 (+ 10.1)
53 年 11 月	8,708 (+ 5.0)	6,940 (- 5.9)	1,768	8,749 (+ 4.3)	7,369 (+ 4.6)	5,667 (- 1.3)	8,817 (+ 4.2)	7,609 (+ 0.3)
12 〃	8,044 (- 7.6)	6,505 (- 6.3)	1,539	8,351 (- 4.5)	7,376 (+ 0.1)	5,624 (- 0.8)	8,765 (- 0.6)	7,694 (+ 1.1)
54 年 1 月	7,833 (- 2.6)	6,914 (+ 6.3)	919	8,050 (- 3.6)	7,694 (+ 4.3)	5,709 (+ 1.5)	8,119 (- 7.4)	8,063 (+ 4.8)
2 〃	8,203 (+ 4.7)	7,200 (+ 4.1)	1,003	8,146 (+ 1.2)	8,003 (+ 4.0)	5,797 (+ 1.5)	8,626 (+ 6.2)	8,247 (+ 2.3)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(%)率(%)。  
 3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。